

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

近年、マンガやゲームの影響もあり、刀剣や陶磁器といった日本の古美術品が注目されている。また、海外では大規模な日本のマンガ展が開かれ、マンガのルーツとして絵巻物を取り上げられるなど、話題となった。何故、日本美術は日本人だけではなく、海外の人々までも惹きつけるのであろうか。この授業では、日本美術史入門編として、飛鳥・奈良時代から戦後まで、各時代の代表的な作品・絵師たちを見ていながら、日本美術の歴史を講義する。同時に、その作品が制作された社会的背景、注文主や享受者といった当時の人々の思い、表現技法などに触れることで、日本美術の特徴について理解を深めていく。

実際に学芸員として博物館に勤務し、美術品を取り扱ってきた経験に基づきながら、日本の美術品の特質について詳しく講義する。最後に、文化財修復の歴史、現代の文化財レスキューといった問題を取り上げることで、現代の我々が今、日本美術史を学ぶことの意義について考える。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	飛鳥・奈良時代—仏教の伝来と仏教美術
第 3 回	平安時代①—新しい仏教美術の始まり
第 4 回	平安時代②—国風文化とやまと絵
第 5 回	鎌倉時代①—鎌倉幕府の成立と肖像美術、仏像のリアリズム
第 6 回	鎌倉時代②—新たな来迎図と垂迹美術、多彩な絵巻物
第 7 回	南北朝・室町時代①—初期水墨画の流行、室町幕府の成立と会所、禅宗美術
第 8 回	南北朝・室町時代②—土佐派と狩野派、地方を拠点にする絵師、御伽草子の魅力
第 9 回	桃山時代①—天下人と障壁画の時代
第 10 回	桃山時代②—茶の湯の美、南蛮美術
第 11 回	江戸時代①—江戸幕府の成立と狩野派の興隆、琳派と円山四条派の登場
第 12 回	江戸時代②—浮世絵の登場、洋風画
第 13 回	明治時代—日本画と洋画の始まり、美術学校の創立
第 14 回	大正時代から戦後—創造と前衛の時代、現代のマンガまで
第 15 回	総括—日本の美術、文化財を取り巻く環境について
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・日本美術に対する一般的な知識を身につけることができる。
- ・美術作品を通して日本の歴史の流れを辿り、日本文化の特質について理解を深めることができる。
- ・日本美術の特徴や鑑賞方法について説明することができる。

履修上の注意

- ・毎回コメントペーパーを配布するので、授業の終わりにその日の授業の感想や意見を書いて提出すること。
- ・私語、遅刻、途中退席をしないこと。
- ・日本の歴史や文化に興味があることが望ましい。

予習・復習

授業前後に様々な日本美術関係の展覧会を積極的に見に行くこと。もしくは博物館・美術館のホームページやデータベースなどを利用して各時代の著名な作品について調べておく。

評価方法

毎回のコメントペーパー（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で総合的に判断する。

テキスト

- ・資料を毎回配布する。
- ・参考文献を授業内で紹介する。